

令和5年2月17日

長与町議会 議長 山口 憲一郎 様

総務厚生常任委員会
委員長 金子 恵

委員会調査報告書

令和4年11月4日派遣承認された調査事件について、会議規則第77条の規定により報告します。

- 1 調査日 令和4年11月9日（水）～11月11日（金）
- 2 調査場所および調査事件（所管事務調査）

日 時	視 察 先	調査項目
11月9日（水） 14時30分～16時00分	東京都八王子市	大腸がん検診・精密検査受診率向上における成果連動型民間委託契約方法（PFS）の活用事例について
11月10日（木） 10時30分～12時00分	東京都武蔵野市 武蔵野プレイス	公共施設の複合化について
11月11日（金） 10時30分～12時00分	東京都荒川区 ゆいの森あらかわ	公共施設の複合化について

3 派遣委員

金子 恵、松林 敏、安部 都、内村博法、安藤克彦、岩永政則、堤 理志、西岡克之

4 概要と所見

【委員長 金子 恵】

東京都八王子市

概要：人口 562,529人（279,081世帯）

面積 186.38平方キロメートル

調査目的：大腸がん検診・精密検査受診率向上における成果連動型民間委託契約方法（PFS）の活用事例について

視察対応：八王子市健康医療部成人検診部

《 調査内容 》

がん検診は、受診率向上と合わせ死亡率を下げることを目的としている。

各種がん検診の中で大腸がん検診はコストが安い。また死亡率が高いため、国民健康保険に加入している市内の住民のうち前年度大腸がん検診未受診者に対し、大腸がん検診受診精密検査について受診勧奨を実施している。本事業はSIBを活用した事業であり、八王子市は、大腸

がん検診受診率、大腸がん精密検査受診率、早期がん発見者数など、成果指標により評価を行い、その評価に応じた委託料を支払う方法を取っている。目標未達成時には支払いは発生しない。

検診を受けることで早期発見に繋がり死亡リスクを60～80%減らすことができ、これによる費用対効果は大きいという。未受診対策としては、今回受診しない場合は今後受診できないとすることで受診率は向上したという。今後は乳がん検診にも取り組む予定とのこと。

SIBとは・・・官民連携の手法の一つ。行政サービスを民間企業などに委託し、民間の資金提供者から調達した資金を基に事業を行い、予め合意した成果を達成した場合にのみ行政から資金提供者に報酬が支払われるもの。

《 所感 》

PFS・SIB事業に期待できることは、導入することで民間事業者のノウハウを活かした事業展開への期待や、効果などが大きいことが考えられる。本町で実施する場合においても健康増進や死亡率を下げる効果が見込まれることや受診率を上げることが、今後の行政コストを抑えることができる一つの取り組みになると感じた。

一方、導入に向けて成果指標の設定など一社随契というところが気になったが、PFS・SIBに対する理解を深めることで導入のメリットを感じた。

東京都武蔵野市（武蔵野プレイス現地視察）

概要：人口 148,345人（78,586世帯）

面積 10.98平方キロメートル

調査目的：公共施設の複合化について

《 調査内容 》

武蔵境駅の正面、農水省食料倉庫跡地の約2,200㎡という土地を、図書館を中心に生涯学習センターや青少年活動センターなどの複合的な機能を持った施設として活用。基本コンセプトとして描かれたのは、「拡張された図書館」、「地域の知を共有する場」、「知的活動を通して市民が市民に出会う場」の3つの視点。単なる図書館でも、勉強スペースでもなく、異なる機能がお互いを補完し合い、市民が市民と出会い、より地域コミュニティを豊かにしていく場として建設されている。各階を歩くと図書館機能の位置づけではない場所にも、関連する書籍が配置され、活動に関係する知識・情報が簡単に得られるようになっている。また、地下2階は20歳以下を対象とした青少年活動支援のエリアとなっていて、勉強もゲームも卓球も、バンドなど色々な活動ができるようになっており、青少年の居場所づくりに貢献したものになっている。

《 所感 》

窓や書棚など丸みを帯びたつくりで柔らかい空間になっていた。これは、丸みを持たせることでそれぞれの居場所のまとまりをもたらし、感覚的になじむという。また、カフェ（家賃は売り上げに応じた賃料）が併設され雰囲気づくりに一役買っていた。それらに加え、駅前とい

う立地条件もあると思うが、まちづくりに繋がっている点も目指したい点である。

本町は今後、健康センターとの複合化を進めていくが、その魅力や住民への行政サービスを低下させることなく、いかに複合化を通じて魅力を高め、満足度を高めていけるかを検討し、取り組んでいく必要があると感じた。

東京都荒川区（ゆいの森あらかわ現地視察）

概要：人口 216,690人（118,898世帯）

面積 10.16平方キロメートル

調査目的：公共施設の複合化について

《 調査内容 》

中央図書館を中心に3つの施設（中央図書館、吉村昭記念文学館、ゆいの森子どもひろば）が入った複合施設。ただ、担当者は「複合施設ではなく、融合施設」と言うほど、その機能の一体化が図られている。また、災害時の帰宅困難者の受け入れや乳幼児を中心とした避難所にも活用できるように、建物は免震構造を採用しており、発電機、備蓄倉庫も備えている。

荒川区の「拠点施設」として整備され、有効に活用されていることが十二分に理解できる施設となっている。また、外観や建物内も荒川区直営とは思えないほど洗練された物だった。設置にあたっては部署横断でコンセプトを議論し、さらに様々な施設を視察し良い点を取り入れていったそうである。さらに、「ゆいの森課」として専門の部署をつくったメリットは非常に大きいとのことである。

《 所感 》

土地取得も含めた建設費用が90億円、ランニングコストは予算ベース4億円と規模的には大きな違いはあるが、構造的にそれぞれの機能に境がないつくりになっており、利用者自らが学び体験し、あらゆる世代が活用し交流できる地域の文化やコミュニケーションの拠点となっていた。また、多くの利用者で賑わっていたことから、今後、公共施設の利用価値を高めるためには、ターゲットを明確にした複合型施設への集約も手段の1つとして有効ではないかと感じた。

【委員 松林 敏】

11月9日 東京都八王子市議会

調査項目 大腸がん検診・精密検査受診率向上事業における成果連動型民間委託契約方式（PFS）の活用事例について

従来 of 自治体が民間事業者 to 委託する事業では、使用発注、事業費を積算し、事業完了により委託料を支払うが、成果連動型契約では、成果指標を設定し、その達成度に応じた委託料を支払うことになる。八王子市の活用事例では大腸がんの精密検査の受診率について目標を設定し、それに応じた支払額をあらかじめ設定していたが、この目標設定と支払額の設定がこの事業の難しいところだと感じました。目標達成の手段に自由度を持たせる事でコストを抑え、自治体と民間業者が win-win の関係になると期待されているが、今回視察した八王子市の事例では民間業者にとっては金銭的に成功と言えないように思われました。

本町で成果連動型契約を導入することがあれば、目標設定と支払額の設定に根拠があるかどうかを精査していく必要があると感じました。

11月10日 東京都武蔵野市（武蔵野プレイスの現地視察）

調査事項 公共施設の複合化

武蔵野プレイスは図書館機能を中心として、生涯学習支援機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能の4つの機能を持った複合施設です。

まずは建築物として武蔵野プレイスを見たとき、外観も内部の構造も曲線がたくさん利用されていて、吹き抜けがたくさんあり、間仕切りが少なく、天井が高く、間接照明がたくさん利用されているなど、おしゃれで柔らかい印象を受けました。2016年には建築学会賞（作品）を受賞しています。建築された方が、利用する人の居心地の良さを、空間を贅沢に利用して演出しているように感じました。視察日も平日にもかかわらず、図書館で本を読む人、スタディコーナーで勉強する人、市民活動エリアで活動をしている市民団体の方々など多くの方が利用されていました。令和9年度完成予定の本町の図書館と健康センターの複合施設も、より多くの方に利用されるような施設を目指さねばと感じました。

また、天井高や吹き抜けの多さから空調について質問したところ、地下に貯水槽を設置して、深夜電力で温めたり冷やしたりして水冷で気温調整をしているとのことでした。ゼロエネルギービルを目指す本町の図書館でも検討すべきものと思います。

11月11日 東京都荒川区（ゆいの森あらかわの現地視察）

調査事項 公共施設の複合化

ゆいの森あらかわは図書館機能を中心として、吉村昭記念文学館とゆいの森こどもひろばの3つの機能をもった複合施設です。特徴としては乳幼児の一時預かり保育を整備していて、子育て世帯向けのスペースが充実していました。視察の日も数組の親子が利用されていました。図書スペースでは「静粛に！」じゃなくてよく、コミュニティの拠点だから会話OKというのが印象に残りました。

あと、印象に残ったのはイスだけではなくてテーブルもセットでいろんなところに配置されていると感じました。テーブルがあった方が本も読みやすいし、メモをとったりもできるので便利だと思いました。

武蔵野プレイスとゆいの森あらかわの2つの複合施設を見て共通して強く印象に残った点が2点ありました。

- ①利用したくなるような外観や居心地の良い空間作りに力を入れていると感じました。
- ②図書館を作るのが目的ではなく、維持管理も含めて多くの住民に利用され続ける、持続可能な図書館づくりということを感じました。

【委員 安部 都】

①八王子市役所

八王子市は、人口約56万3千人、約27万9千世帯の街で、東京都心から西へ40キロメートルの距離に位置していました。大正6年の市制施行から平成29年で、100年を迎えた

歴史ある街でした。八王子市では、がん検診事業におけるSIB/PFS導入の成果と方向性について伺いました。がんによる死亡率減少を目指すため、大腸がん検診、精密検査受診率向上において、大腸がん検診前年度に未受診者へ受診勧奨や要精密検査判定者への精密検査受診率向上のため、成果連動型民間委託契約方式PFS（Pay For Success）とSIB（Social Impact Bond）を活用していました。この方式は、資金提供者から事業資金の提供を受け、八王子市が委託した民間事業者を委託し、実施事業について成果指標を設定し、その達成度に応じた委託料の支払いをすることです。例えば、大腸がん検診無料クーポン券対象者に健康診査と大腸がん検診のセット受診を開始し、前年度比9.9%の受診率の向上に繋げ、早期がん発見時の医療費削減効果に大きな費用対効果を上げていました。令和4・5年度は、新たな展開として乳がん検診受診率向上のために取り組んでいました。素晴らしい成果型事業の取り組みでしたが、本町では、資金提供をしてくれる民間事業者を見つけることなど、かなり難しい取り組みだと感じました。

②武蔵野市役所（武蔵野プレイス）

武蔵野市は、人口約14万8千人、約7万9千世帯の街で、施策の計画・展開にあたって市民参加を掲げ、先駆的に高い市民意識に基づいて策定された長期計画など取り組んでいました。

武蔵野市では、公共施設の複合化について、武蔵野プレイスの視察を行いました。武蔵野プレイスは、図書館機能・生涯学習支援機能・市民活動支援機能・青少年活動支援機能の4つの機能を備えた「ひと・まち・情報創造」の素晴らしい施設で、角を作らない、シースルーを意識した人々の動線を意識できる、しかし、プライバシーも確保できる部屋や明るく自然の光を取り込んだ図書館など人々に活用されるスペースを大事にして整備されていました。この日も多くの人々が訪れ、思い思いにゆっくり時間を共有していました。又、想像を豊かにする武蔵野プレイスは、沢山の講座やイベントも開催され、住民に愛されている複合施設でした。このような理想的な複合施設を本町も構築できたらと思いました。

③荒川区役所（ゆいの森あらかわ）

荒川区は、人口約22万人、11万7千世帯で、東京23区の中央に位置する区でした。今回、図書館、文学館、子ども広場の機能が有機的に結びつく「融合施設」であるゆいの森あらかわを視察しました。コンセプトは、「夢をはぐくみ心をつなぐ感じる知的創造空間」であり、体験して学べることを基本としていました。財政措置については、社会資本整備総合交付金8億3,100万円を活用し、区債（区の借金）が、38億1,700万円ほどで、来館者数は、令和3年度が、51万961人もあり、令和3年度の遊びラウンジ（子ども数15,283人）及び託児利用者数は2,199人と多くの区民から利用され、愛されたゆいの森あらかわでした。

館内には、ティーンズコーナーから絵本館へ自由に移動でき、機能を縦割りではなく、一つの課に融合した合理的配慮がなされていました。

最後に、本を中心に図書館と子ども機能、文学館が融合し、サービスを提供された各機能の専門職が連携し、新たなサービスを創出するなど、常に推進していることに改めて魅力ある融合施設のすばらしさを肌で感じてきました。本町の図書館と健康センターもこのような必要に応じた融合施設をとり入れ、いつでも多くの町民に利用され、愛される複合施設となることを願いました。大変、今後の参考となる視察研修となりました。

【委員 内村博法】

1. 東京都八王子市議会の「大腸がん検診・精密検査受診率向上事業における成果連動型民間委託契約方式（PFS）の活用事例について」（人口約56万2千人、議員定数40人）

今回、八王子市健康医療部成人検診課より「大腸がん検診・精密検査受診率向上事業における成果連動型民間委託契約方式（PFS）の活用事例」について①八王子市のがん検診実施状況②成果連動型民間委託契約方式（PFS）のモデル導入③PFSの展望などの説明を受けた。長与町にはこのようなPFSを活用した事例はないが、費用削減を図る上では有意義な方法ではないかと思う。成果指標の設定の根拠を詳しく説明されたが、この設定はがん検診という特殊な業務で医学的な事例であるため、大変難しいと感じた。今後、本町で活用するためにはこの成果指標の設定のあり方を更に研究する必要がある。

2. 東京都武蔵野市議会の「公共施設の複合化について（武蔵野プレイス現地視察）」

（人口約14万8千人、議員定数26人）

今回、公共施設の複合化について武蔵野プレイスを現地視察した。本施設の概要と参考になった点は次の通りである。

（1）施設の概要

（イ）図書館機能、市民活動支援機能、生涯学習支援機能、青少年活動支援機能の4つの機能を備えた複合施設となっている。

（ロ）地上4階、地下3階（地下3階は駐車場）には、①メインライブラリーやこどもライブラリーといった図書館機能②生涯学習機能の多目的室のフォーラムや個人が自由な発想で利用できる書斎的スペースのワーキングデスク③市民活動支援機能の市民活動エリア④青少年活動支援機能のフリースペースやスタジオなどが配置されている。1階にはカフェがある（使用料徴収）。令和3年度武蔵野プレイス年報によると蔵書数は約18万5千冊、貸出件数は年間約100万2千件、来館者数は年間約128万8千人である。また、開館時間も9:30～22:00と遅い時間でも利用でき、非常に人気の高い施設となっている。

（ハ）建設費用は約71億円（土地代を含む）、年間の維持管理費用は約5億7千万円（令和3年度実績）で、武蔵野市が出資している「公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団」に委託を行っている。

（2）本町も図書館と健康センターの複合化を検討しているが、比較にならない大規模の施設であった。本町の新施設に参考になる点として①エネルギー負荷の削減として機密性が高く、開閉できない窓の構造としたこと②可能な限り整形（スクエア）、均等スパンでより明快な構造とし、コストダウンを図ったことが挙げられる。ただし①については機密性が高いためコロナにより施設の利用に大きな影響を受けた。

3. 東京都荒川区議会の「公共施設の複合化について（ゆいの森あらかわ現地視察）」

（人口約21万6千人、議員定数32人）

今回、公共施設の複合化について「ゆいの森あらかわ」を現地視察した。本施設の概要と参考になった点は次の通りである。

（1）施設の概要

(イ) 図書館、吉村昭記念文学館、ゆいの森子ども広場の3つの機能を備えた融合施設となっている。

(ロ) 地上5階、地下1階（駐車場他）には、①赤ちゃんから高齢者まで、すべての世代に新たな発見と読書の楽しみを提供する図書館②作家・吉村昭（荒川区出身）を感じ、文学に親しみ、文化を育む空間として吉村昭記念文学館③子どもたちの夢や生きる力、子育ての喜びや楽しさを地域ぐるみではぐくむ荒川の未来創りの拠点として子ども広場などが配置されている。1階にはカフェがある（使用料徴収）。令和3年度実績として蔵書数は約40万5千冊、貸出件数は年間約73万8千件、来館者数は年間約51万人である。

(ハ) 建設費用は約90億円（土地代を含む）、年間の維持管理費用は約7億5千万円（令和3年度実績）である。

(2) 本町も図書館と健康センターの複合化を検討しているが、武蔵野プレイスと同様比較にならない大規模の施設であった。遊び라운ジの乳幼児向けの室内遊びと子育て世代の交流の場は①好奇心旺盛な乳幼児の想像力や集中力を養い、遊びを通じて発育を促す遊具を常備②子育て世代が気軽に交流できる場③発育に応じてエリア分けされた安心な空間④乳幼児との飲食スペース⑤常駐の保育士が保護者と子どもの遊びの時間を見守り、日々の子育ての相談にも応じるとなっている。現在、本町で検討中の子どもの遊び場（遊具）の参考になると思われる。

【委員 安藤克彦】

がん検診事業におけるSIB/PFS導入の成果及び方向性について

八王子市

6月議会の質問でPFS導入の可能性を取り上げたが、現地に赴き研修の機会を頂いた。委員各位に感謝したい。

八王子市は大腸がん検診の受診勧奨事業を成果連動型委託で行い、受診率向上に効果を上げている。検診の特徴としては、科学的根拠のあるがん検診を決められた対象、方法、間隔で行うための勧奨を柱とし、胃がん検診はX線検査を廃止し内視鏡検査のみを行い、検診機関の体制確保を医師会と協力して行って、全ての画像の二重読影など実施手順の確立を行っている。これらにより、高い受診率と精検受診率を達成している。大腸がん受診勧奨についてはSBIを導入し、受診率向上の為にあらゆる手立てを行っている。対象者全てに同じ勧奨を通知するのではなく、これまでとは異ったアプローチ（オーダーメイド勧奨）が一例である。男女別はもちろん、リスクの要因である飲酒・肥満・運動不足・喫煙といった項目を特定健診の問診から拾い上げ、大腸がんになる可能性を対象者個々に通知することで検診受診に繋げている。委託費が成果に連動するために受託側も数々の提案を行うという。総括としては、委託自体は一部の成果目標が達成されず、インセンティブは全体で見ると予算総額の5割強となっているが、一部指標については受託側の努力が及ばないものと考えられるとの事だった。この指標の設定は特に難しい部分と考えられる。受診率上昇度に応じた医療費適正化効果額の算出がインセンティブ決定の基礎と考えられるので、慎重に検討する必要があると感じた。また、今回の委託事業は一社随意契約であった。競争原理を働かすためには、これまでの経緯、実績を含め、革新的手法により事業実施を担える事業者がさらに必要であると感じた。令和4年度からは同委託方式を乳がん検診にも広げていた。今後も事業の進捗を注視したい。

公共施設の複合化について

武蔵野市（武蔵野プレイス）

地下3階、地上4階建ての生涯学習支援・市民活動支援・青少年活動支援等の機能を併せ持った複合施設である。図書館機能を核とし、それ以外の目的を持った人をも図書館に取り込もうとする複合施設の利点が伺えた。特に子どもたちの居場所的なフロアでは学習や語り合える場だけでなく、卓球やテーブルホッケーまた、ティーンズライブラリーも併設されており、気軽に本にふれあえる工夫がされており、気軽に1人で立ち寄りやすい雰囲気があった。建物、窓、天井の隅など、あらゆる所が丸みを帯びて設計されており、柔らかい印象であった。

荒川区（ゆいの森あらかわ）

地下1階、地上5階建ての図書館・文学館・子どもひろば・学び라운ジの機能を併せ持った複合施設である。（荒川区では、それぞれの機能が有機的に結びつく融合施設と言うようだ）それぞれの機能に壁が無く、明確な境がない設計でできている。建物の中央に位置するホールは壁をつければ映画上映もでき、それ以外の時には図書の閲覧をしたり、休憩をしたりするのも使える。また、ホールを上って上層階にも行ける。

どちらの施設にも共通していることだが、遊び・市民活動・青少年活動のついでに本とふれ合うことができる。それぞれの活動に必要な情報を得ることができる複合施設だからという利点を多く感じた。メリットはあってもデメリットは見当たらないと言う声も聞いた。

終わりに

長与町では図書館建設の話が進みつつある。基本計画の答申にも新しい図書館は「貸出型から滞在型、課題解決型へ」とある。まさに伺った2館は生涯学習等との融合を図り、施設の価値を2倍にも3倍にも高めていたと感じた。

【委員 岩永政則】

11月9日 14時30分～16時00分

東京都八王子市議会

（大腸がん検診・精密検査受診率向上事業における成果連動型民間委託契約方式（PFS）の活用事例について）

中島副議長のあいさつ、金子委員長からお願いのあいさつ後、田島課長からの説明を受ける。

中島副議長からは、がん検診のいきさつについて、経済産業省から声かけがあり、乳がん検診にまで拡大したとのこと。

PFSとは、通常のがん検診は自治体が事業者へ委託し、事業費を事業完了後支払うことであるが、事業の成果指標を設定し、その達成度に応じた委託料を支払う手法とのこと。

よって成果が出なければ委託料は支払わないとのこと。めったに成果がないことはないと思われるが、この手法による委託方式には相応の学習が必要と思われた。

本町でも行われている集団検診は、実施していないとのことである。

11月10日 10時30分～12時00分

東京都武蔵野市武蔵野プレイス（公共施設の複合化について）

場所は武蔵境駅のすぐそばで、市街地のど真ん中である。施設に隣接し境南ふれあい広場公園があり、素晴らしい環境である。

複合施設は、図書館機能・市民活動支援機能・青少年活動支援機能・生涯学習支援機能の4施設で構成されていた。

敷地面積＝2,166㎡ 建築延面積＝9,809㎡ 階数＝地上4階・地下3階

駐車場＝28台 駐輪場＝145台

コロナ前は1日約5,000人、今日では一日3,500人の利用があるとのこと。

管理は、法人組織となっていた。

施設は造るが、問題は利用の度合いである。本町の図書館もしかりである。

質問に対する回答は、別紙で事務局に備えてある。

11月11日 10時30分～12時00分

東京都荒川区ゆいの森あらかわ（公共施設の複合化について）

志村議長・北川副市長のお迎えを受けた。

敷地面積＝4,100㎡ 述べ床面積＝10,900㎡ 地上5階 地下1階

開館＝平成29年

この館は、中央図書館・えほん館・ゆいの森ホール・ゆいの森子どもひろば・吉村昭記念文学館から構成されていた。

特色として、飲食可スペースがあり、カフェには貸し出し前の図書を持ち込めることができるとのこと。

災害時には防災拠点の機能を持っていた。

1日の来館者は、1,500人とのこと。視察当日もそれぞれのスペースの利用者が多数見受けられていた。本町の今後の図書館建設に議会として、建設的な提案が必要である。

【委員 堤 理志】

訪問先自治体の概要は資料に記載があるため省略いたします。

大腸がん検診・精密検査受診率向上事業における成果連動型民間委託契約方式（PFS）の活用事例について

八王子市において、がん検診の目的は「死亡率の減少」であるとの説明を受けた。コスト削減ではなく、地方自治法に定められた住民の生命、健康を守る立場を明確にしている点は非常に印象的であった。

事業の実施にあたっては、利害関係のない複数の目で確認をすることやスクリーニングの正確性、客観性、受診率の向上が客観的になされているのか指標を数値化し高い精度をほこっていた。

エビデンスに立脚した取り組みがなされていたと感じた。

懸念する点もいくつか出てきた。まず受診勧奨をすべての住民に行うのではなく、これまでの実績から、勧奨する人を篩（ふるい）にかけていた。この点は、公平、公正を旨とする行政、

それをチェックする議会がどう捉えるのか、難しい問題があると思う。

また、どのような形で委託先がコストを下げているのかが不透明である。委託先の内情に行政が関知しないスタンスであったが、例えば委託先が従業員を非正規雇用、給与削減でコストを抑えているとした場合、住民の雇用や福祉の向上を目指す行政や議会がそれを黙認することになりはしないか、本町にあてはめた場合は気になるところである。

ただ冒頭にも記載したとおり、事業の目的をコスト削減ではなく「住民の死亡率減少」とした姿勢については、公共サービスをアウトソーシング化することの是非にかかわらず、地方自治体、議会が念頭に置くべき点だと考える。

武蔵野市の公共施設の複合化について

この施設は（公財団法人）武蔵野文化生涯学習事業団が、指定管理者として市から委託を受け事業を実施していた。複合的な機能としては図書館機能、生涯学習機能、市民活動機能、青少年活動を複合化したものであった。

図書を読むスペース、学習スペースなど余裕を感じ、いつ訪れても座って本を読めるのではないかと感じる。どこから図書館で、どこからが生涯学習・という線引きを感じさせない取り組みがなされていた。こうした手法は本町も参考にすべきだと感じた。

留意しなければならない事項としては、図書館が本来持つ図書館の自由、すなわち資料収集や利用者の秘密を守るなど図書館の独自性、自律性が複合化により損われることがないのかという点が気にかかるところではある。

また、指定管理者制度がそもそも抱える安定的な運営に対する疑念などもあり、こうしたデメリットの部分はいかになくすことができるかとの視点を本町も持ってと考える。

荒川区 ゆいの森あらかわ

この施設は図書館と作家吉村昭記念文学館、こどもたちの遊びの場を複合化した施設であった。

先方はこの施設は「複合」ではなく「融合」と強調されていた。室内の階段をホールの客席として活用したり、子どもが雨の日でも遊べる場所として機能していたり、活字離れ文学離れ科学離れに対応した事業など、目的を達成していると感じた。

子育て世代や子どもたち、高齢者がゆっくりと学習や地域活動に使える施設となっており、こうした空間をつくることは非常に大切だと痛切に感じた次第であった。

【委員 西岡 克之】

1. 八王子市(PFS)について

PFS（成果連動型民間委託契約方式）の活用事例を視察へ八王子市に行き、実際にどのような制度なのか、また課題は何か研修させてもらった。八王子市では特定検診は行っておらず、医療費軽減を目指して現代人に多い大腸がんの特化して検診率の向上、医療費軽減を目的に始められたと思う。もちろんその先には、がんによる死亡率減少があるのが見て取れる。

現地に赴き所管課の方に事業の概要、実際に導入後の実績などの説明を受けた。内容としては、行政と民間事業者との間で大腸がんの検診率向上について契約を結び、一定程度の向上が

ある場合に行政から報奨金のような契約金が支給されるという契約形態のようだった。ある程度の向上がみられるようだが、説明が終わり立ち話的な会話の中で、担当所管の方から広域でやられた方が結果が出やすいとの話を聞き、人口50万人以上の大都市でも効率が分かりにくい制度は本町にそぐわないと感じたのが一番の印象だった。

2. 武蔵野プレイス

図書館複合施設の建築・運営について、本町でも令和9年に図書館完成が決定しているので先進地の武蔵野プレイスに視察に行かせてもらった。現地について調査するまで武蔵野市は不交付団体というのが解り、補助金にしばられず自由度の高い複合施設建設ができているのを感じた。

室内外の造りは、ここで表現するにはかなりの紙面を要するので省略するがカフェの導入、また、場所の制限はあるがカフェでの購入飲料持ち込みOKや、場所の限定はあるものの会話もOKなど先進的な取り組みも参考になった。建物の構造などは長与に合ったものを制作すべきだと考える。

3. 「ゆいの森あらかわ」

災害時の2次避難所としての機能も兼ね備えている施設として運営されている図書館を基本としての複合施設で、当地にゆかりのある、作家の吉村記念館も館内に併設されているのがユニークだった。ホールも館内に併設されており講演会などできるほか、雨の日に遊べる子供の遊戯施設があるのがユニークだった。ここも会話OKで、カフェ併設。民間業者がテナント入居していたカフェには図書持ち込みOKで、ゆるい決まりがはやりらしい。計画中の長与図書館も考えなければと感じた。隣地の芝生広場にはマンホールトイレ、防火水槽など、これも複合化施設ではないかと思った。